

第2部

基本構想と 人口ビジョン



第1章

まちづくりの目標(目指すべき将来像)

第1節 第4次里庄町振興計画の基本構想の概要

全国的に少子高齢化が課題となる中、本町の人口構造の変化は緩やかに推移するものと見込まれていますが、人口減少は避けられないものとなっています。

今後、本町の人口をできる限り維持しながら、まちの持続可能性を高めていくためには、子育てしやすい環境、ものづくり産業の立地、交通の利便性等、本町が有する優位な地域資源を生かしたまちづくりが重要となります。

これらの地域資源を活用することで、地域経済の発展や雇用の創出、地域の魅力向上、地域コミュニティの活性化等が期待でき、里庄町のイメージアップにもつながります。

子どもたちが健やかに生まれ育ち、すべての町民が元気で心豊かに暮らせるまちになることで、みんなの笑顔が生まれます。また、子どもたちが進学等で一時的にまちを離れても、将来、また住みたいと思える魅力あるまち、高齢になっても安心して生活できるまちでありたいと考えます。

このために、町民一人ひとりが里庄町のイメージを形づくる主体として、いきいきと活動し、ともにまちづくりを行うべく、次の将来像を目指すものとします。

〈将来像〉



子どもの元気な
声が響き
みんなの笑顔が
あふれるまち



第2節 コンパクトなまちづくり

本町は、北は虚空蔵山、南は毛野無羅山に囲まれ、これらの山々の間には国道2号沿道や役場周辺に広がる市街地とその周囲に広がる田園空間から構成されています。

また、面積は約12km²と岡山県内で2番目にコンパクトなまちであり、約11,000人が生活しています。

本町では、町民の豊かな暮らしの確保や若者が魅力を感じるまちづくりを通して、地域の活性化を推進していくとともに、人や環境にやさしいまちづくりを推進するため、快適で緑豊かなコンパクトなまちの形成を目標とします。

これらを踏まえ、少子高齢化・人口減少に対応した持続可能な都市経営を目指すため、令和2年(2020年)4月に都市計画区域が再編され、令和4年(2022年)3月に「里庄町都市計画マスタープラン」を改訂しました。

また、令和6年度(2024年度)には「里庄駅周辺地区バリアフリー基本構想」を策定し、引き続きJR里庄駅や周辺施設の利便性の向上を図ります。



つばきの丘運動公園上空から望むまちの眺望

第3節 シビックプライドのまちづくり

シビックプライドとは、ふるさとを学び、愛着を持つ「郷土愛」にとどまらず、まちの課題解決や活性化といった「まちづくり」への参加意識を高め、具体的な行動を起こそうとする姿勢を醸成するものです。

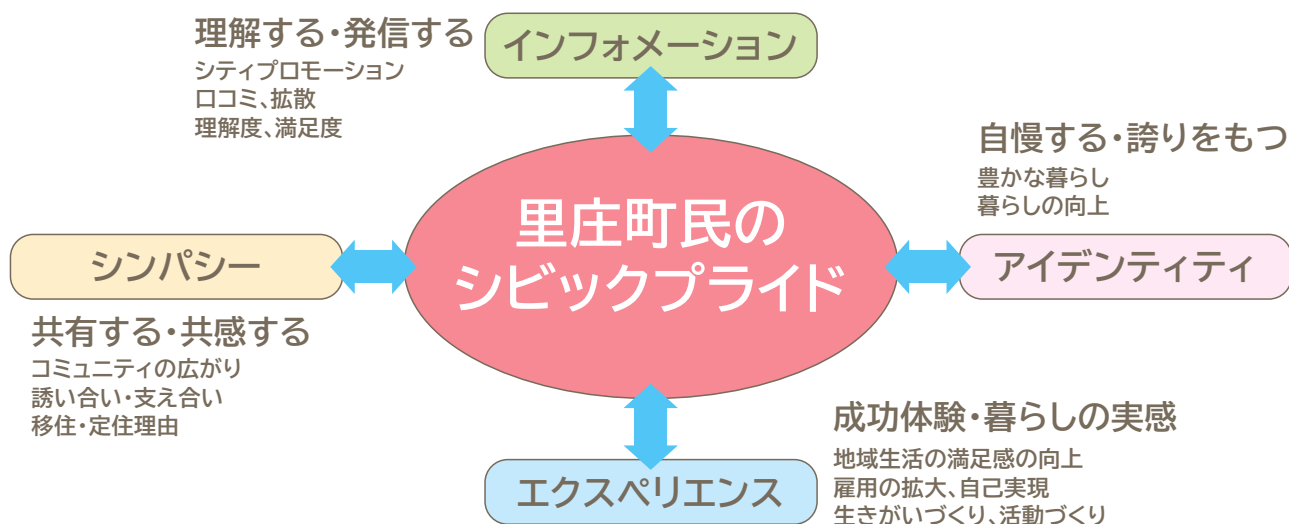
わが国では超高齢社会を迎えており、本町でも高齢者の増加が続くものと想定されます。こうした中、町民の活動が、雇用や就労を中心とした生活から、生きがいや趣味を中心とした地域生活へと転換を図ることになります。また、若い世代においても、働き方改革やワーク・ライフ・バランス等の推進により、それぞれの暮らし方や自己実現に目を向ける町民が増加しつつあります。

それらの地域や家庭に根ざした活動に取り組むうえで、暮らしの充実感や満足感、高揚感を得るには、地域全体が豊かに暮らしやすくなる必要があります。

本町では、「まちづくり」を地域協働、町民協働で推進することを目指しています。

そのため、シビックプライドの考え方を導入し、町民一人ひとりの自己実現の活動、社会貢献の活動に限らず、「里庄町が好きだから」ということが活動の原動力となることを意識できるような取り組みを進めます。

すべての町民が里庄町に愛着を持ち「みんなで地域を考えよう」、「自分たちの活動で地域が変わる」、「地域での暮らしが豊かになった」という実感を積み重ね、魅力あるまちづくりにつなげます。



<シビックプライドで変わるまちづくり> ～里庄町での暮らしを「自分たちの事」として考える～

シビックプライドは「当事者意識を持つ」ということにほかなりません。まちづくりは「他人事」ではありません。一方で、個人が主張しあう「自分事」でも進みません。町民一人ひとりが地域に積極的に関わり、育んでいく「自分たちの事」と考えて行動を起こしていく必要があります。



一人ひとりが、里庄町での暮らしを「自分たちの事」と考える機会を持つことで、町に誇りを持ち、日常のすべての仕事や活動を「わがまちのイメージにふさわしいものにしたい」と考える町民が一人でも増えていくことが、シビックプライドのまちづくりです。

第4節 地域資源を生かした自主・自立のまちづくり

本町は、国道2号、JR山陽本線が通る交通利便性の高いまちであるとともに、東は浅口市、西は笠岡市と隣接し、岡山・倉敷都市圏や福山都市圏に近接している恵まれた地理的環境を有しています。こうした環境を生かして、ベッドタウン、ものづくり産業のまちとして、自主・自立のまちづくりを推進します。

多くの人から「住みたいまち」、「住み続けたいまち」として選ばれるよう、地域経済の発展や雇用の創出、地域の魅力向上、地域コミュニティの活性化等に取り組み、持続可能なまちづくりを推進します。

「第4次里庄町振興計画」に関する町民意識調査(令和6年度(2024年度))によると、「住みやすい」と感じる町民の割合は58.5%、「愛着を持っている」割合は73.9%となっており、生活の場として高く評価されていることを示しています。

本町が直面する少子高齢化、人口減少という課題に対応するには、以下のような優位な地域資源を生かしたまちづくりが必要となります。

《里庄町の優位な地域資源》

- | | |
|---|------------------|
| ●町の中央部を東西に国道2号、JR山陽本線が通る交通利便性の高いまち | ●生活の場としての住みやすいまち |
| ●浅口市・笠岡市と隣接し、岡山・倉敷都市圏や福山都市圏に近接して、それら諸都市の様々な都市機能を楽しむまち | ●通勤、通学がしやすいまち |
| | ●自然が豊かなまち |
| | ●充実した教育環境のまち |
| | ●ものづくり産業のまち |
| | ●コンパクトなまち |

第2章

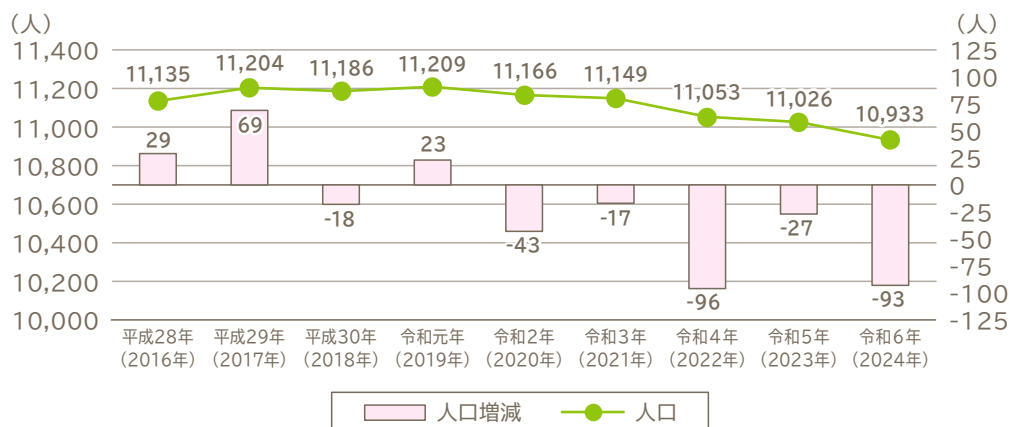
里庄町人口ビジョン

第1節 人口の推移及び人口動態の推移

住民基本台帳による本町の人口は、令和元年(2019年)の11,209人をピークに、減少傾向となっています。人口の増減数では、令和2年(2020年)以降減少が続いており、令和6年(2024年)の人口は10,933人となっています。

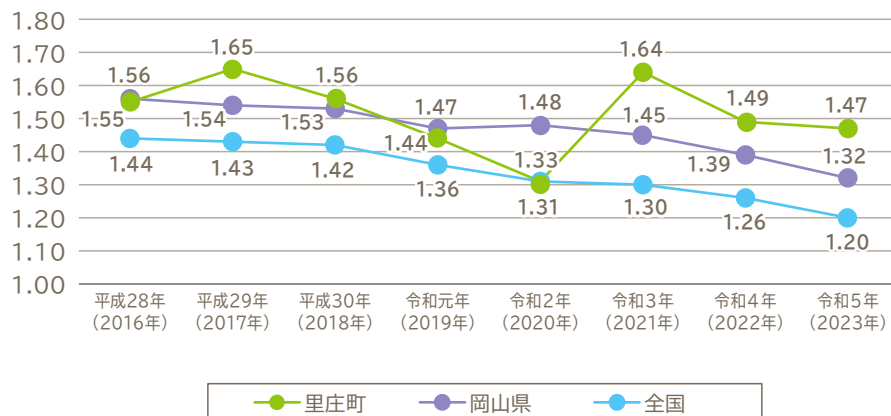
本町の合計特殊出生率をみると、令和2年(2020年)には1.31まで低下し、近年では最も低い値を記録しました。令和3年(2021年)には1.64に回復していますが、令和5年(2023年)では1.47となっています。

《人口増減の動向》



資料:住民基本台帳(各年3月31日、人口増減はそれぞれ前年1年間)

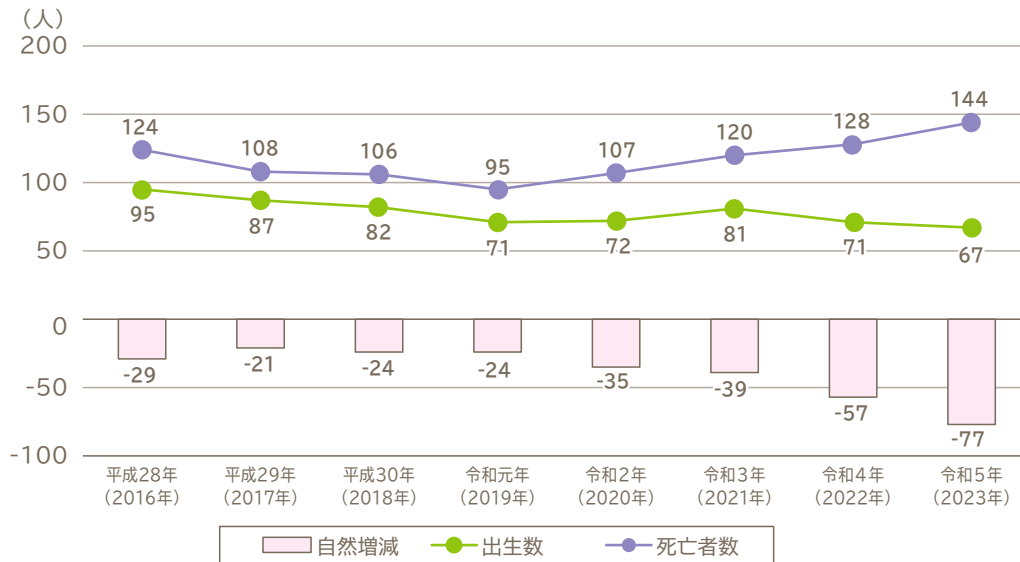
《合計特殊出生率の推移》



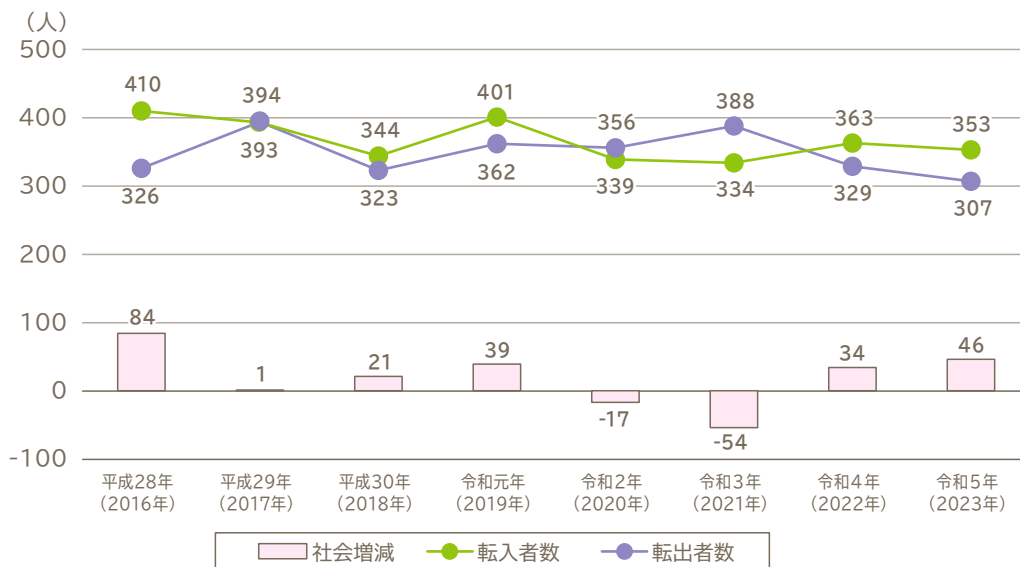
資料:岡山県衛生統計年報(平成28年(2016年)~令和4年(2022年))
人口動態統計から試算(令和5年(2023年))

人口動態をみると、自然動態では死亡者数が出生数を上回る自然減が続いている一方、社会動態では令和元年(2019年)までは転入者数が転出者数を上回る社会増となっていました。令和2年(2020年)から令和3年(2021年)は、転入者数が転出者数を下回る社会減となっていました。令和4年(2022年)からは再び社会増となっています。

《自然動態の推移》



《社会動態の推移》

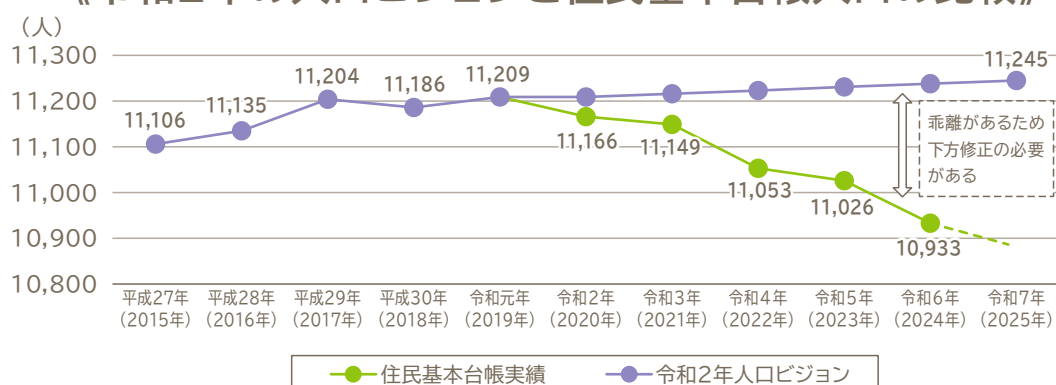


第2節 人口ビジョンに基づく将来人口の目標

令和元年(2019年)までおおむね増加傾向だった人口は、令和2年(2020年)に減少に転じています。

令和2年(2020年)に策定した人口ビジョンでは、しばらく微増傾向が続くと見込んでいましたが、減少に転じたことにより、下方修正を行う必要があります。

《令和2年の人口ビジョンと住民基本台帳人口の比較》



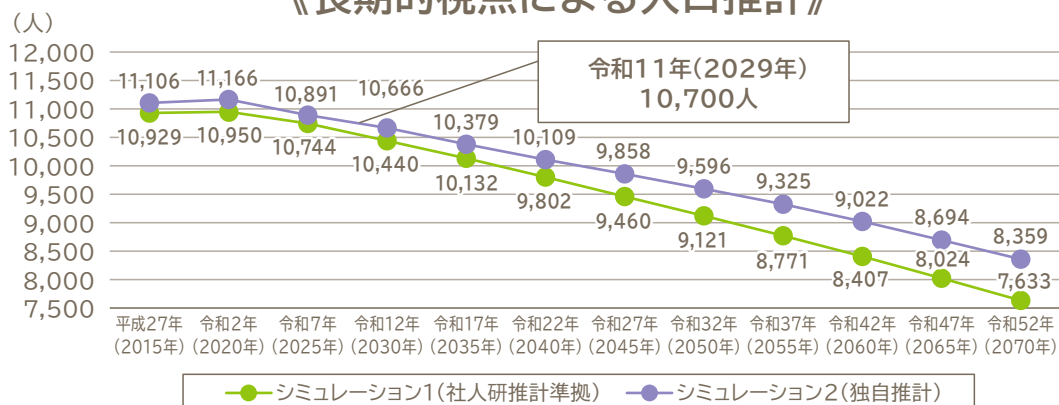
資料:人口ビジョン令和2年(2020年)及び住民基本台帳(各年3月31日現在)

本町の人口は、国立社会保障・人口問題研究所における令和52年(2070年)の推計では、7,633人になることが予測されています。

これに対し、本町の人口ビジョンでは、人口減少に歯止めをかけ、まちの活力を維持することで、令和52年(2070年)における目標人口を8,359人とし、約8,000人を確保する目標を掲げています。

本計画の目標年次である令和11年(2029年)における将来人口は、里庄町人口ビジョンを踏まえ、10,700人を目指します。

《長期的視点による人口推計》



資料:社人研推計準拠は国勢調査の平成27年(2015年)、令和2年(2020年)の数値をもとに推計されたもの。

独自推計は住民基本台帳(各年3月31日現在)の令和元年(2019年)と令和6年(2024年)の数値をもとに推計されたもの。

本計画における人口の目標【令和11年(2029年)】
10,700人